

お歳暮時期に待望の熊本みかん誕生！！

イーシーじゅういち

みかんの新品種「熊本EC11」を育成

農業研究センター果樹研究所では、みかんの新品種「熊本EC11」を育成しました。

高糖度で、12月に出荷するみかんとしては、じょうのう膜（中袋）が軟らかく、良好な食味が特徴です。また、果実腐敗につながる浮き皮の発生が少ないため、生産・出荷量の安定が期待できます。

今後、この品種の産地化により、みかんの最大の需要期である12月に高品質みかんを安定的に出荷できるようになれば、熊本みかんのブランド力向上が期待されます。



※本品種は農業研究センターが11番目に育成した柑橘であり、Evergreen fruit（常緑果樹）、Citrus（柑橘）の頭文字と育成順番の11を取り、「熊本EC11」と命名。

1 育成の経過

平成11年、「させぼ温州」^{注1}に「ハッサク」の花粉を交配して得られた^{しゅしんはい}珠心胚^{注2}から14年の歳月をかけて育成したものです。

平成25年2月25日、種苗法に基づく品種登録出願を行い、平成25年6月12日に出願公表されました。

注1) 長崎県佐世保市で発見された「宮川早生」の枝変わり品種

注2) みかんの雌しべに花粉を交配すると、雌しべ内に受精胚とは別に多数の胚が形成されます。これらを珠心胚といいます。この胚は母親に由来するものですが、突然変異しやすく、品種改良に使われます。

2 品種の特性

① 食味が良好

高糖度でじょうのう膜が軟らかいため、12月（お歳暮時期）に食味の優れた果実を出荷できます。

② 浮き皮が少ない

近年、県内では気候温暖化の影響で浮き皮の発生による品質低下が著しくなっています。この品種は浮き皮の発生が少なく、安定した生産・出荷が見込まれます。

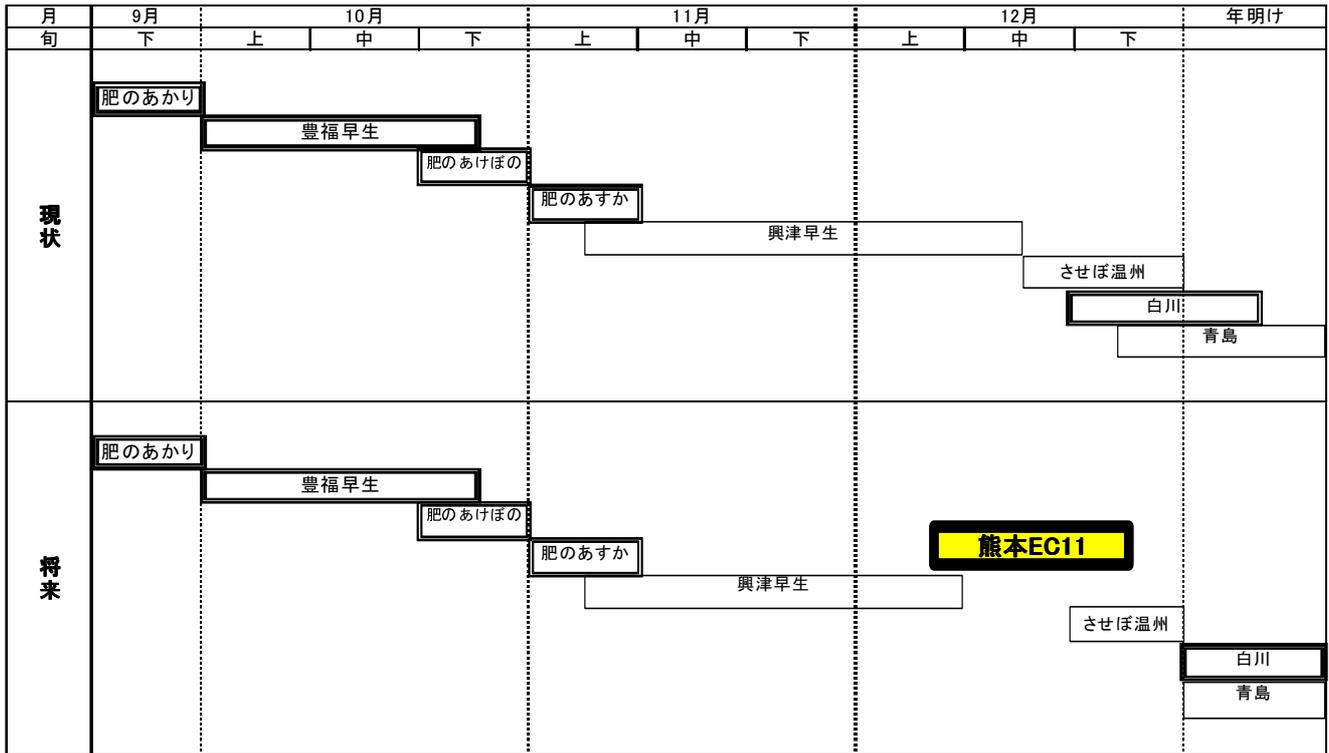
3 産地化の計画

平成26年春に県内産地で現地実証ほを設置するとともに、平成28年春から県内生産者に対する苗木供給を予定しています。

平成35年までに100haを目標に産地化を進めます。

【県内温州みかんの主要品種別出荷時期】

本品種が導入されることで、12月の本県みかんの品質が向上するうえ、みかんの品種によって、最適な時期に出荷が可能となり、熊本みかんのブランド力向上が期待されます。



- : 県育成品種
- : 今回育成品種

※着果状況等については、本日午後2時から、農業研究センター果樹研究所（宇城市松橋町豊福 2566）にて公開しますので、詳しくはその際にご確認ください。

お問い合わせ先

農業研究センター

果樹研究所 榑、北村 TEL:0964-32-1723

企画調整部 小坂 TEL:096-248-6423

園芸課

果樹班 山部、岩谷 TEL:096-333-2394